

インフルエンザ流行発生注意報発令！

～川崎市市内におけるインフルエンザ流行状況～

本市におけるインフルエンザの定点当たり患者報告数が、令和6年第49週（12月2日～12月8日）に流行発生注意報基準値（定点当たり10.00人）を超えたため、流行発生注意報を発令します。

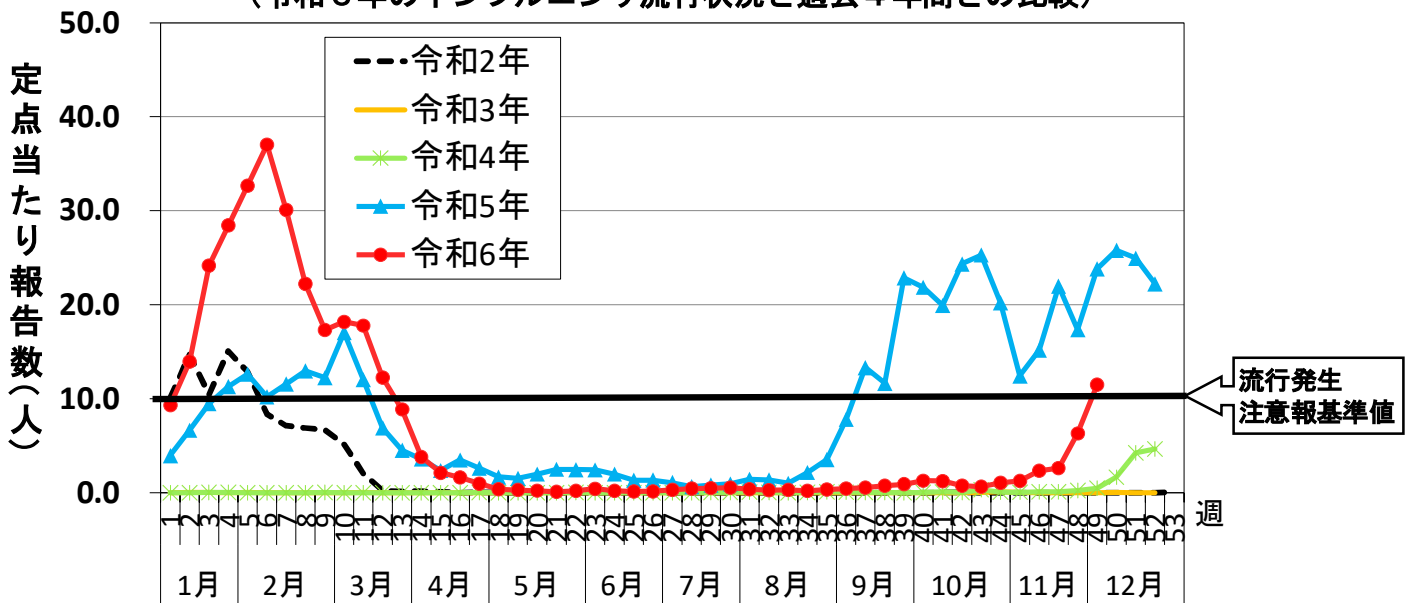
今後、市内においてインフルエンザの大きな流行が発生することが推測されます。別添リーフレットを参考にインフルエンザに「かからない、うつさない」ために一人ひとりが手洗い等の予防をすることが重要です。

*本市で実施している感染症発生動向調査では、毎週61施設のインフルエンザ定点医療機関から患者の発生状況を報告いただいています。

1 本市におけるインフルエンザ流行状況

インフルエンザの定点当たり患者報告数は、令和6年第49週（集計期間：12月2日～12月8日）に11.41人となり、流行発生注意報基準値を超えました。

川崎市市内におけるインフルエンザ患者報告数
(令和6年のインフルエンザ流行状況と過去4年間との比較)



(川崎市健康安全研究所感染症情報センター担当作成)

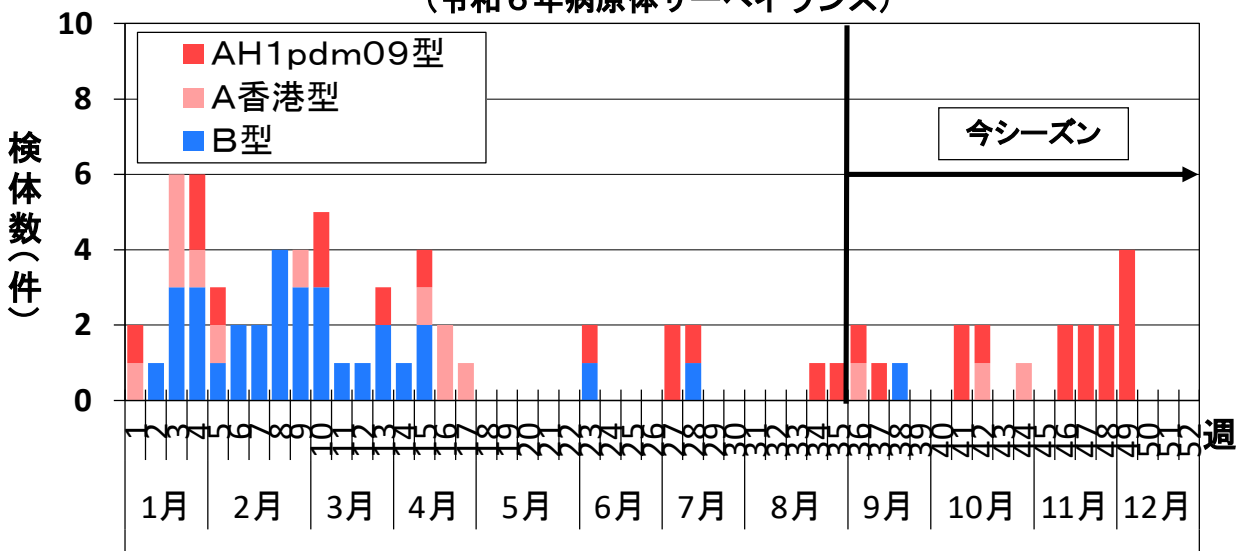
2 本市におけるインフルエンザウイルス検出状況

感染症発生動向調査では、市内16箇所の病原体定点医療機関から検体の提供をいただき、インフルエンザウイルスの検査を行い、流行しているインフルエンザウイルスの型の把握を行っています。

今シーズンの検体提供数は32件であり、そのうち19件からインフルエンザウイルスが検出されました。その内訳はAH1pdm09型が15件、A香港型が3件、B型が1件でした。

※令和6年12月10日結果判明分まで

川崎市内におけるインフルエンザウイルス検出状況
(令和6年病原体サーベイランス)



(川崎市健康安全研究所感染症情報センター担当作成)

3 過去4週間の定点当たり患者報告数

第45週(11月4日～11月10日): 1. 25人

第46週(11月11日～11月17日): 2. 33人

第47週(11月18日～11月24日): 2. 62人

第48週(11月25日～12月1日): 6. 31人

《問合せ先》

川崎市健康福祉局保健医療政策部 小田

電話 044-200-2446

ウイルスを撃退して

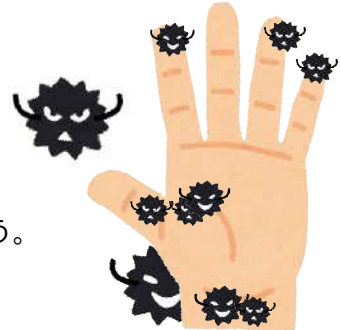
インフルエンザを予防しましょう！

川崎市内でインフルエンザが流行しています。

インフルエンザに「かからない、うつさない」ために、正しい衛生習慣を身につけましょう。

外出から帰ったら、必ず、手洗いをしましょう

- ◆ ウイルスは目に見えないため、どこについているかわかりません。外出したら、必ず石けんで手洗いをしましょう。
- ◆ 洗っていない手で、目や鼻、口を触らないように習慣づけましょう。
- ◆ 洗った手は清潔なタオルやペーパータオルで拭きましょう。



人にせきやくしゃみをかけない「せきエチケット」を身につけましょう

- ◆ せきやくしゃみが出たら、
 - ・他の人にうつさないようにマスクを着用しましょう。（口だけでなく鼻もおおきましょう）
 - ・マスクを持っていない場合は、他の人から顔をそらし、ティッシュなどで口と鼻をおおきましょう。
- ◆ せきやくしゃみを手でおおったら、手を石鹸で丁寧に洗いましょう。
- ◆ 鼻汁、痰などを含んだティッシュはすぐゴミ箱にすてましょう。



ワクチン接種を受けましょう

- ◆ インフルエンザにかかった場合の重症化を防ぐ効果が期待できます。接種から2～3週間で効果が現れますので、まだ受けていない方はできるだけ早い接種をおすすめします。



空気環境やふだんの健康管理に注意しましょう

- ◆ 部屋は適切な湿度を保つようにしましょう。（湿度50%～60%程度）
- ◆ 定期的に換気をよく行いましょう。
- ◆ 十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、免疫力を高めましょう。



なるべく人混みは避けましょう

- ◆ インフルエンザが流行してきたら、人混みや繁華街への外出を控えましょう。
- ◆ 発熱や関節痛等のインフルエンザが疑われる症状があるときは、無理をして学校や職場には行かず、早めに医療機関を受診しましょう。

